

令和4年度「^{ふるさと}郷土に学び・育む青少年運動」強調月間における特色ある取組

市町村名 (瀬戸内町)

事業名	諸鈍シバヤ伝承活動 (瀬戸内町立諸鈍小中学校)	実施時期	10月～11月
趣旨又は目的	<p>(1) ふるさを大事にする心を持ち、校区に伝わる文化や伝統を深く理解する子どもを育成する。</p> <p>(2) 地域のよさに気づき、伝統文化について自ら知ろうとする意欲を持つとともに、地域の一員としての自覚を高め、地域に貢献する子どもを育成する。</p> <p>(3) 諸鈍シバヤの踊りを練習し、例祭の場での発表を通して、シバヤの持つ価値の大きさに触れ、ふるさに誇りを持つとともに、伝統文化を守り伝えようとする意識を育む。</p>		
参加者	<p>小学生男子11名，中学校男子3名 計14名 教職員14名，諸鈍シバヤ保存会・地域集落住民（唄者）8名 (女子児童生徒は学習発表会にてエイサーを披露)</p>		
活動概要	<p>諸鈍シバヤ保存会や集落の方々から指導を受けて、諸鈍シバヤの歴史を学び、唄者の方々の節に合わせて踊りの練習を行った。令和2年度より新型コロナウイルスの影響で大屯祭が3年連続で中止になり、大屯神社で披露することができなかった。そこで諸鈍シバヤ・エイサー発表会（10月4日，旧暦の9月9日）でシバヤを披露することになった。約1週間，保存会の方々や集落の方々が，仕事等が終わった後に学校に集まって頂き，毎日練習して伝統芸能の継承をして頂いた。分からないところや不十分なところは，昼休みなどの時間を使って練習をして，細かい部分の演技を確認した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症感染の影響で，集落の方々も久しぶりに子どもたちが演じる姿を見て喜んでいらっしゃる様子であった。また，里朋樹氏に島唄を披露して頂き，諸鈍シバヤや島唄が地域に絶えず受け継がれてきていることを再確認し，地域を大切にするとともに，伝統文化を守り伝えていくことができた。</p>		
活動写真 [説明]			